

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
生誕 150 周年祝賀記念行事 閉会式
2014 年 5 月 25 日 清泉女子大学講堂
歓迎のご挨拶
スワミー・メーダサーナンダ

ご友人の皆様、自然界になぞらえて申し上げますと、1893 年、初めて世界の檜舞台に登場したスワミー・ヴィヴェーカーナンダは、一大センセーションを巻き起こした彗星のようでした。それ以来、スワミージーのメッセージは輝ける太陽の如く、無知と弱さが染み付いた数多(あまた)の魂を照らし、力と勇気を与え続けてきました。また、頭上に広がる分かつことのできない空のようにこの世界を一つにすべく、相反する要素に調和をもたらす術(すべ)を与えています。そして、北極星のように輝いて、道に迷った人類を正しい道へと導いています。その結果、その影響は、ある時は力強く、またある時は静かに、インドのみならず世界の思想界に変革をもたらしてきました。

スワミージーの比類なき貢献は、生誕 150 周年祝賀記念行事を機に、日本など数多くの国の皆様に公式非公式を問わず認められつつあります。日本では、一連の記念行事が一年にわたって開催され、本日のこの閉会式を以て終了となります。

ご友人の皆様、インドに本部を置くラーマクリシュナ・ミッションの支部である日本ヴェーダーンタ協会が組織した祝賀委員会を代表し、また私自身の思いも込め、本閉会式にご来場いただきました皆様に心から歓迎いたします。

本日は、ラーマクリシュナ・マト・アンド・ラーマクリシュナ・ミッションの事務総長であられるスワミー・スヒターナンダジ猊下にご参列いただくという祝福に恵まれました。ご多忙中にもかかわらずこうしてスヒターナンダジにお越しいただきましたことは大変喜ばしく、また心の高揚を感じずにはられません。スヒターナンダジを心から歓迎いたしますと共に、後ほどスワミージーについてお話しいただくのを楽しみにしております。

また、光栄にもインド大使ディーパ・ゴパラン・ワドゥワ閣下にも主賓としてご臨席を賜り、喜ばしい限りです。スワミージー生誕 150 周年祝賀記念行事として一年間様々なプログラムや行事を開催してまいりましたが、大使閣下のご指導の下、インド大使館には常にご支援ご鞭撻をいただきました。大使閣下を心から歓迎いたします。

さらに、インド哲学をご専門とされる、中村元東方研究所理事長で東京大学名誉教授であられる前田專學教授にもご列席いただきました。前田教授を心から歓迎いたします。教授は非常に優れた学者であられ、先日、インドのパドマ・シュリー勲章を文学・教育分野において受章されました。本日は、光栄にも前田教授にメインスピーカーとしてスピーチをいただきます。

釈迦は仏教徒のためだけの存在ではなく、イエス・キリストはキリスト教徒のためだけの存在ではなく、ムハンマドはイスラム教徒のためだけの存在ではありません。いかなる物質的遺産と比しても、彼ら全員が、人類の遺産の中で最も貴重な遺産なのです。同様に、ヴィヴェーカーナンダはインドに生まれたヒンドゥー教の僧侶ではありませんが、すべての人々のための存在です。スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年記念祝賀行事が世界各地で開催されましたが、年齢や職業、信仰、洋の東西を問わず様々な人々が集まって、インスピレーションの源とな

ったスワームージーの神聖な思い出に敬意を表するのを目にしてきました。

本日の集まりはそれ程大きなものではありませんが、様々な経歴を持つ方々が一堂に会してこのプログラムにご参加くださいました。皆様全員を心から歓迎いたします。また本日は、ネパール大使 マダン・クマール・バツライ閣下、千葉県能忍寺 山口博永老師、祝賀委員の中で最も熱意があり対応力の豊かなメンバーであるイエズス会神父で上智大学教授 シリル・ヴェリヤト神父、インドに本部を置くアートオブリビング財団 スワームー・サッディオ ジャータハ師、サティアサイ教育協会および在日印度商工会議所理事長 比良竜虎理事長など、各方面で活躍されるご高名な方々、様々な宗教の方々から、スワームージーに捧げるお言葉をいただきます。

日本でこの祝賀会を開催することには特別な意義があります。というのも、ご存じのことと思いますが、スワームージーは 1893 年、宗教の調和について見事な演説をして歴史に名を残したあのシカゴの第一回万国宗教会議に向かう途中、この国を訪れました。彼は、日本とその国民や文化に対し深い愛情と深遠な認識を持ち、自国の同胞、とりわけ若者に、自らの目で見た日本人の優れた特質を吸収して欲しいと願いました。

日本の著名な美術評論家で学者の岡倉天心は 1902 年、スワームージーを招いて日本再訪を実現させようと渡印し、一定期間スワームージーのところに滞在しました。しかし、スワームージーの個人的な世話により、協会の本部であるベルル・マトの僧院で、サンスクリットを学ぶためにブラフマチャーリのように約五ヶ月間暮らし、その後ラビンドラナート・タゴールの個人的な世話によりシャンティニケタンのブラフマチャーリヤ・アシュラムに住んだ最初の外国人が、天心と共に渡印した日本人青年 堀至徳であったことをご存じの方は多くないでしょう。彼は、スワームージーにもタゴールにも大変かわいがられました。

スワームージーは、明治天皇を始めとする高名な日本人から招待を受けながらも日本再訪を果たせませんでした。肉体を離れるその日でさえも日本のことを考えていたことは、スワームージーが 1903 年 7 月 4 日に述べた「日本のために何かをしたい」という意味深い言葉から明らかになっています。

スワームージーの訪日と、天心と堀至徳の訪印は、現代の日印交流の架け橋の礎となり、広く影響を与えました。そしてその礎は、詩人ラビンドラナート・タゴールを始めとするインドと日本の傑出した人物らによりさらに強められたのです。

今日の日本は、自信を取り戻し、個人の生活と国家の生活のために目標を定め、その目標の達成に取り掛かる火急の必要に迫られています。このことは、この生誕 150 周年祝賀記念行事の開会式に安倍晋三内閣総理大臣から頂戴した祝辞にも述べられております通りです。この点について、道徳的靈的価値観に基づき自信と平安、調和を謳(うた)うスワームージーの魂を揺さぶるメッセージは、日本の皆様にとって非常に貴重なものとなり得ましよう。

こうしたことから祝賀委員会では、日本の皆様にスワームージーの思想をよく知っていただくために全国各地で一年にわたり様々な行事を開催するという大胆な計画を立ち上げ、種々のプログラムやプロジェクトを策定しました。限られたリソースにもかかわらず、そのほとんどを実施することができました。では、それらの行事を簡単にご紹介いたします。

生誕 150 周年祝賀記念行事の開会式は、2013 年 6 月 9 日にインド大使館で開催され、光栄にもインド大使ワドゥ閣下に主賓としてご臨席いただきました。ヴェーダーンタ・センター・オブ・グレーター・ワシントン DC の長であられるスワミー・アートマギヤーナーナンダジと、ご高名な学者であられる奈良康明教授がメインスピーカーでした。文化プログラムでは、ランジャン・グプタ氏の監督による「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの愛」をテーマにした歌、朗読、ビデオクリップなどで構成された作品などが披露されました。

2013 年 11 月 30 日には、関西地区の方々のために大阪で同様のプログラムが開催されました。メインスピーカーは、在大阪・神戸インド総領事アシーム・マハージャン閣下、在日インド商業会議所会頭の J・S・ダヤル氏、日本ヨーガ療養学会理事長の木村慧心氏、京都大学教授の田辺明生教授でした。また、2014 年 4 月 12 日には九州地区の方々のために熊本でも同様のプログラムが開催されました。メインスピーカーは、著名な作家で平和運動家の正木高志氏と私、スワミー・メーダサーナンダでした。

日印関係の歴史と、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯やメッセージを主に紹介する展示会が、2013 年 9 月 28 日～29 日、東京・代々木公園でのインドフェスティバル「ナマステ・インディア」にて開催され、初日のテープカットを森喜朗元首相にいただきました。また、この展示会はインド大使館アートギャラリーでも開催され、テープカットをインド大使ワドゥ閣下に行っていただきました。一般公開は 2014 年 4 月 3 日～6 日で、多くの方々が来訪されました。

インド大使館では、2014 年 3 月 26 日に、タゴール生誕 150 年記念会とディスカバー インディア クラブ、協会の共催により、「スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心」をテーマにセミナーも開かれました。インド大使ワドゥ閣下に開会の辞を賜り、ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・ボストンのスワミー・ティヤガーナンダジ、上智大学の平野久仁子博士、東京大学の富澤かな博士、天心のひ孫であられる岡倉登志教授、スワミー・メーダサーナンダがメインスピーカーでした。

さらに協会では、生活に困窮されているの方々に対し冬物の衣類と果物を配布しました。これは、「貧しい人々を神と見なして仕えなさい」というスワミーの教えに基づいた活動です。

協会はまた、スワミーに関する書籍四冊と DVD 一枚を発行しました。また、思慮深い記事や写真を多数掲載した隔月日本語雑誌の特別号を二冊発行しました。さらに、スワミーに関して、インスピレーションに富む有益な日本語書籍を数百冊発行して、前述の祝賀行事で配布するとともに、インド大使館と協力して教育機関や公共図書館に置いていただきました。

こうした活動はすべて、精神を高揚させるスワミーの思想を道しるべとして叡智と力、平安に満ちた理想的な人生を送れるよう、日本の皆様にスワミーの思想を知っていただくことが目的なのですが、多くの方々のご尽力ご協力のおかげで、また何よりもスワミーの恩寵により、この目的が概ね達成されましたことは誠に喜ばしい限りです。

また協会では、ラーマクリシュナ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・フィリピンおよびヴェーダーンタ・ソサエティ・オ

ブ・コリアと協力して、昨年マニラとソウルでそれぞれスワミーの生誕 150 周年を祝う素晴らしい記念行事を執り行いました。どちらの祝賀会にも、現地のインド大使を始めとする高名な方々にご臨席賜り、来賓のスピーチをいただきました。マニラでの祝賀会では、フィデル・ラモス元大統領閣下、ラーマクリシュナ・ミッションの支部であるインドのアドヴァイタ・アシュラマの前プレジデントであられるスワミー・ボドサラナンダジにスピーチをいただきました。

一方、大変悲しいことに、著名な学者でヒューマニストであられ祝賀委員会の副委員長も務められた奈良毅教授が今年 1 月に逝去されました。ラーマクリシュナやヴィヴェーカーナンダ、ヴェーダーンタの教えを日本に広めるために、奈良教授には計り知れないほどのご貢献をいただきました。心より感謝いたします。

最後に一つ私見を申し上げたいと思います。現代世界の歴史を鑑みますと、資本主義が機能不全となり共産主義の実験が不成功に終わった今、私たちは、多元主義と協調の時代へと進まねばなりません。なぜなら、今日の先進技術により人々の距離が縮まって、世界の諸国民諸民族間における効果的な交流が課題となっており、この課題への対応策として協調と多元主義の精神を養うことが最良策であるからです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダはこれらの概念の擁護者でした。スワミーは個人生活と集団生活のあらゆる面で調和を提唱し、さらに、インド最古の、最も深遠かつ普遍的哲学であるヴェーダーンタの説く、意識の次元における存在の合一を礎とする調和の哲学を私たちに知らしめたのです。

ですから、特定の国の市民としてだけでなく、世界市民として、物理的な結びつきだけで争いの絶えない現在の世界を精神的に一つにすることにより、「一つの世界」の概念を現実に形あるものにするために、ヴィヴェーカーナンダとヴェーダーンタが、今、必要なのです。

最後にもう一度、本日の祝賀行事閉会式にご参列いただきました皆様を心より歓迎いたします。スワミー・ヴィヴェーカーナンダの祝福が私たち皆に降り注がれますよう、スワミーに祈りを捧げます。